

天声人語

顔面蒼白をもじった「顔面総白」の創作四字熟語が登場したのは2009年だった。新型インフルエンザが日本に「上陸」して流行し、マスクが売り切れた。白いマスク顔が街にあふれた。外国人観光客を驚かせた▼初夏からの流行に、「マスクは冬の風物詩ではなくなった」という声も聞こえてきた。保育所が休業したり、修学旅行の中止が生徒を泣かせたり。ピリピリして身構えた記憶がよみがえる、韓国のウイルス禍である▼中東呼吸器症候群(MERS)コロナウイルスの感染者は増えて、死者は16人を数える。社会不安は広がり、百貨店の売り上げや遊園地の入場客も落ち込んでいるという。朴槿恵大統領は訪米を延期した▼昨今のニュースでよく目にしたのは、エボラ出血熱のひもを結んだようなウイルスだった。今度のは丸い。周りの突起が太陽のコロナに似ていることから名がついた。あれやこれや、次から次へと、ミクロの病原体に人類が攻められている図といえる▼疫病の流行は、小さな兆候から始まるのが常のようだ。小説だが、カミュの名作「ペスト」は、医師が階段で1匹の死んだネズミにつまずくところから始まる。それが燎原の火の前兆だった。今回、韓国では、最初の患者への対応の誤りが広がり招いたと批判されている▼ウイルスはいつどこへ飛び火しても不思議はなく、他人事でいられる国はあるまい。水際の備えを万全にして、万一のときも素早く消し止めたい。隣国の早い終息を願いながら。

2015・6・16